

■（２４４）釜石・鵜住居に住宅兼店舗ができたが……

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県釜石市鵜住居地区で、再建工事中のＪＲ駅そばに、平屋の住宅兼店舗が完成した。震災から６年５カ月近く。一帯で初の自主再建住宅で、入居済みの災害公営住宅と合わせてようやく、まちの再生がスタートする。

その新築の建物のすぐそばが、２００人近い犠牲を出した防災センターの跡地だ。避難所と勘違いした多くの住民が逃げ込んで犠牲になったとされる。建物は解体されたが、悲劇と教訓を後世に残すため、祈念公園の整備計画を市が進める。つい先日、その住民説明会が催された。しかし、市幹部や大勢のマスコミが待つ中、集まった遺族は実質２人だけ。そのがらんとした会場に、市幹部は衝撃を受けたと聞いた。しかし、計画策定に関与した市民の代表は言う。「行政主導で、遺族や住民側から要望や意見が出ても、なかなか反映されなかった」。住民不在で、関心が薄れてしまった結果ではないか、というのだ。

身の回りでもありうる話だと気付いた。意見をまとめたい時、反対意見は聞くが、最終的には「原案通り可決」という流れは、どこか、１強政治の国会審議と重なる。（山）